

新しいあいちの健康福祉ビジョンについて

1 ビジョン策定の趣旨

1 これまでのあいちの健康・福祉

H5.7 に「あいち 8 か年福祉戦略」、H13.3 に「21 世紀あいち福祉ビジョン」を策定し、県民福祉の向上を図ってきた。

2 新たなビジョン策定の意義

本格的な超高齢社会へのソフトランディング、少子・人口減少社会への対応、障害者が安心して暮らせる社会の構築、虐待への対応、ひとり親家庭への支援、地域医療の確保など今日的な課題に対応し、これからの健康福祉の羅針盤とする。

3 ビジョンの期間・性格

2025 年を見据えた 2015 年までの計画
「政策指針 2010-2015」と連携し、中長期的な視点に立って、望ましい健康福祉社会の姿や各分野を横断する視点を示し、大きな考え方や主要な政策を方向付けていくことで、個別の法定計画をリードする。

政策指針2010-2015

○2010年から2015年までの6年間の地域づくりの羅針盤、2015年に向けた地域づくりの基本方針
○基本課題として「いのちを守る『安心・安全』の社会をつくる」、「誰もが『希望』を持って活動できる社会にする」等を提示

新しい健康福祉ビジョン

○本県の健康福祉が進むべき方向を示す羅針盤
○「政策指針2010-1015」と連携し、大きな考え方や主要な政策を方向づけ、健康福祉関係の個別の法定計画をリードする。

方向性を提示

健康福祉関係の個別計画

○新しいビジョンが示す施策展開の方向に沿って、施策を推進
・あいちはぐみんプラン ・高齢者保健福祉計画 ・障害福祉計画 ・健康日本21あいち計画 等

一体となって健康福祉施策を推進

2 基本とする考え方

1 これからの時代認識

(1) 社会状況

- ・ 高齢化(超高齢社会の到来)
- ・ 少子化(進む少子化と人口減少社会の到来)
- ・ 家庭のあり方の変化
- ・ 地域社会のあり方の変化
- ・ ライフスタイルや価値観の多様化
- ・ 安心の低下、希望の喪失
- ・ 地域主権の進展
- ・ 経済・雇用の状況

(2) 保健・医療・福祉制度の動向

2 基本理念

めざすべき社会像のイメージを、次のようなキーワードをもとに提示

安心／希望／尊厳／健やか／支え合い／地域／共生／協働／生活の質 等

3 基本とする横断的な視点

(1) 家庭の機能を支える

家庭の小規模化等により家庭の機能が弱くなったことをうけ、介護や子育て等、家庭が担っている機能への支援が大切となる。

(2) 地域全体で支え合う

行政を含め、地域住民、企業、NPO 等の多様な主体が、地域社会を支え合う担い手となり、地域をつくっていくことが必要となる。

(3) 一人ひとりの生き方と可能性を尊重する

年齢や性別、支援を必要とするかに関わらず、地域でその人らしい生活を送れるようにすることが大切である。

(4) 予防・早期対応を重視する

予防に努めるとともに、早期に対応することで、状況が深刻になることを防ぐことが必要となる。

(5) 安定的なシステムを構築する

今後ニーズが増大するなか、制度面・財政面からも安定的に継続できるしくみを構築することが必要となる。

3 分野別の推進

分野ごとに、2025 年に向けた課題や方向性を整理し、2015 年までの重点的な取組を示す。

1 健康分野

2 高齢者分野

3 子ども分野

4 障害者分野

5 医療分野

6 地域福祉分野(新たな支え合い)

4 ビジョンの推進にあたって

1 福祉圏域の設定

2 ビジョンの推進体制の整備と評価